

うまい！うるぎ米でひっぱり隊事業

取組に至る背景・事業の目的

売木村観光協会は観光産業の振興を目的に平成12年に設立された。以後村のPR活動等推進してきたが、より一層の地域の特長を生かしたPR・周知をするために、売木村が力を入れて売り出している地域ブランド米の新たな特産品づくりに取組んだ。まずは、愛知県境茶白山を訪れる多くの観光客を売木村に引き込むため、現地での催事において特色ある物品販売をすることを開始した。

事業内容

地元のうるぎ米を使用したライスコロッケを各種イベントで販売出来るよう、フライヤー等の機械を導入するとともに、オリジナルのイラストを使ったパッケージやシールの作成を行い、売木村うるぎ米のPRを行った。

事業効果

誕生したうるぎ米のコロッケ「米コロ」を地域ブランド商品と位置づけ、包装資材や販売促進用具の作成にあたっては、地元高校生考案のデザインを採用するなど、ブランドイメージの定着を図ってきた。

今回、フライヤー等の設備を整えたことにより、催事中常にできたの「米コロ」を提供できるようになった。

現在は、長野県、静岡県の両県の営業許可を取得し、広範囲に売木村の観光宣伝、うるぎ米の販売促進を図ることが可能となった。

「米コロ」の存在が少しずつ知られるようになると、各地のイベントから声がかかるようになり、さらに周知が進む、といった具合に好循環が生まれている。

昨年の売上げ数1,500個に対し、今年度は10月現在で既に昨年の4倍近くに達するなど、大きく売上げを伸ばしている。



【うるぎ米を使った米コロ】



【ご当地グルメイベントでの様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「シンプルだけれどお米を生かす」味と大きさの検討に2年近くかかり、「米コロ」が完成した。

当初は、販路の開拓に苦戦したが、南信州広域連合や村の紹介によるイベント参加に加え、長野県名古屋事務所の紹介等もあって、徐々に広範囲にわたり「米コロ」が浸透するようになってきた。

イベント等の出店には、村内の自営業者等の協力を頼っている部分が大きく、持続的な体制を構築していくことが課題となっている。

この春より、村の施設である「ふるさと館のつみくさ食堂」にて「米コロ」販売が可能になり、現在月に100~200個を売上げている。また、冷凍販売等の希望に応えるため、「米コロ」の製造増加、持ち帰りのできる包装容器や、地方発送などについても現在検討を進めている。

今後も各地イベントへの積極的な参加による売木村のPR・周知に力を入れていく一方で、多くの人に目を向けてもらうには地域の特色を生かす地域産品を更に増やしていく必要があると考えている。

【選定のポイント】

パッケージやシールに地元高校生のイラストを採用し、地域特産品のブランド化を図り、県内外の各種イベントで販売することで売木村うるぎ米を広くPRし、さらに購入者の要望に応えるため、村内で通年販売できるよう取組んでおり、地域と特産品をPRする活動として高く評価できる。

団体名	売木村観光協会（売木村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0260-28-2568	事業費	876,217円
		支援金額	720,000円